

2008
8.1◆
第3号

日本の進路 北九州版

■発行所／自主・平和・民主のための広範な国民連合 ■発行人／加藤 毅
〒210-0911 川崎市幸区幸町4-8 青柳ビル2F TEL044-511-0427 FAX044-541-2066
■編集／自主・平和・民主のための広範な国民連合・北九州
〒802-0821 北九州市小倉南区横代北町4-13-26 TEL093-965-4800 FAX093-965-4811

「日朝友好北九州の集い」特集号

国交正常化の早期実現を願い100名が結集

日朝友好訪朝団の報告会を兼ね、友好ムードを盛り上げる

国民連合・北九州は7月13日、北九州市小倉北区において福岡県日朝友好協会と共催で「日朝友好北九州の集い」を開催しました。これは5月に結成された福岡県日朝友好協会が、6月23日から28日にかけて送り出した第二次日朝友好訪朝団の報告会を兼ねて計画されたもので、当日は日朝友好を願う各界・各層の方々や多くの市民が訪れました。福岡朝鮮歌舞団の友情出演もあり、会場は友好ムード一色に彩られました。

今年の5月25日に政界、財界、労働界、学者文化人、市民運動家など各界各層の人たちが集まり、全国に先駆けて「福岡県日本朝鮮友好協会」という組織を結成した。

そしてこれを記念して第1回「日本朝鮮友好訪朝団」を結成し、6月23日に北京経由で北朝鮮を訪問した。10名で構成されたこの訪朝団は市会議員、県会議員、それに佐賀大、北九大で教鞭をとっている新進気鋭の学者たち、労働組合の役員など、そうそうたるメンバーが含まれており、北朝鮮側もかなり重視していたようである。私たちが平壤に到着すると、「朝鮮日本友好親善協会」という組織の幹部がわざわざ飛行場まで降り立ってきて、私たちを出迎えてくれた。翌日の朝鮮労働党の機関紙「労働新聞」も私たち一行のことを報道した。

北朝鮮滞在中は、北朝鮮から韓国を臨む板門店、金日成主席の生家「万景台」など革命ゆかりの地や外国語大学などを見学した。北朝鮮との会談では「朝鮮労働党」「外務省」「それに北朝鮮の頭脳である「社会科学学院」とそれぞれ場を設けて、忌憚のない意見を出し合った。

日本政府は「拉致問題」の解決なしには日朝国交正常化なしと「馬鹿のつ覚え」のように繰り返し、日朝間にはあたかも「拉致問題」だけしか存在しないかのように主張している。マスコミもそれに呼応するかのよう、「北朝鮮は狡猾でしたたかだ。信用できない」などと口を極めて北朝鮮を誹謗している。そこには、かつて日本が「植民地時代」に朝鮮の資源を収奪し、朝鮮人民に計り知れない苦しみと屈辱を与えたことに対する贖罪の思いはひ

とかけられない。

アメリカが北朝鮮をテロ支援国家の指定から解除した時、慌てふためいた町村官房長官、高村外相などが「日本には北朝鮮に対する経済援助という切り札がある。のどから手が出るように日本の援助を欲しがっているのは北朝鮮だから、こちらから彼らの術中に陥つてはならない」と述べている。ここにもまた、持てる者の傲慢さと北朝鮮に対する蔑視が露骨に表れているではないか。

私たちは招待してくれた朝日友好親善協会「の会長であり、「朝鮮労働党」の国際部副部長の要職にある金泰鐘先生が会談の中で、「朝鮮人民は日本による植民地時代の朝鮮人四〇万人の強制連行、二〇〇万人の虐殺、二〇万人の従軍慰安婦という犯罪を忘れていない」と述べた。この言葉は何度か目にし耳にしてきたが、気さくでユーモアのある方だけに、淡々とした話しぶりに胸にグサリとくるものがあった。

外務省の日本担当研究員という若手の職員との会談でも、「日本は（圧力と対話）で対北朝鮮外交に臨んでいるが、圧力と対話は全く矛盾しており、われわれには決して通用しないし、そ

心温まる思いを 私は決して忘れない!

北朝鮮を訪れて■山口哲夫(日朝友好訪朝団団員)



平壤空港で出迎えてくれた朝日友好親善協会幹部(中央)と団員 右端が筆者

ういう日本を信頼できない。信頼のないところからは何も生まれないし何も進展しない」と厳しい言葉が返ってきた。それはそうだろう。猛獣を飼いなすようなやり方ですらどうして信頼関係が生まれるというのか。圧力と対話とは、やぐざが相手のわき腹にどすを突きつけて、「今から俺と話をしよう」と言うのと同じではないか。平壤宣言に基づいて日朝正常化を実現しようとするなら、まず朝鮮を植民地化して計り知れない苦しみを与えた朝鮮人民に、心から謝罪し罪を償うべきであろう。そうすれば朝鮮人民も日本を許し、両者の間に真の友好と和解が必ず生まれると信じている。

私は拉致問題は基本的問題に解決していると思っているが、万が一問題が残っていても相互の信頼関係があれば必ず解決すると確信している。ほかの団員も同じ経験をしたようだが、私も「北朝鮮に行つてくる」と言ったら、身内の者から友人知人にいたるまで「大丈夫?」と危惧の念を示した。笑って私を送り出してくれたのは女房だけであった。こうして北朝鮮に対する恐怖感、嫌悪感を植えつけ、民

族排外主義を煽る一部の勢力とマスコミの口を許すわけにはいかない。幸いにしてそうした風潮を打ち破り、日朝国交正常化を求める運動が全国で急速に盛り上がりつつあることは実に喜ばしい限りである。

初めて北朝鮮を訪れ、朝日友好親善協会会長始め通訳など関係者の皆さんの人格に触れ、こんなに心温まる思いをしたことを私は決して忘れない。特に通訳の一人で平壤外国語大学日本語科を卒業し、同校で教鞭をとっている金雪花(キムソラ)という22才の若くて聡明、しとやかで控えめな女性が深く印象に残っている。彼女の日本語は実に流暢で朝鮮人特有のなまりが全くない。彼女は平凡な農村出身の娘でありながら大学を卒業できたので、これからの人生を祖国のために捧げたいと健気に語っていた。

北朝鮮は決して楽園ではない。社会資本も十分に整備されていないし、人民の暮らしもあまり豊かではないようである。ここでもまた、マスコミはそうした北朝鮮の否定的なところ、たとえば貧困という一部分だけをセンセーショナルに取り上げ、あたかもそれが北朝鮮の全体像のように報道している。そうしたやり方は、真実を伝えるというジャーナリストの使命をみずから否定するものである。恥を知るがいい。

数日の短い期間でその国の実情をつぶさに知ることは不可能であるが、どこの国もそうであるように、貧しいながらも国づくりに真摯に取り組んでいる北朝鮮人民も、善良で心温まる人であるはずである。日本も北朝鮮と早く友好関係を結ぶことが、アジアの安定と平和に貢献することにつながると思っている。